

=== Ver. 3.00 変更内容 ===

□機能強化

- ・AI-CPU 動作時の 4 点検出・文字認識の処理中の CPU 使用率を低下させることができるようになりました。

※ただし、処理速度とのトレードオフ

- ・JPEG 形式/TIFF 形式での画像ファイル保存に対応

□パフォーマンス改善

- ・認識対象項目を限定した場合に文字認識の処理時間を短縮

□仕様変更

- ・非 AI 動作用のファイル構成／非 AI 動作を廃止
- ・対応カード種別から通知カードを削除
- ・動作環境/開発環境として Windows 10 の対応バージョンを以下に変更
 - ・Windows 10 version 22H2 日本語版
- ・住所辞書を 2018 年 4 月～2023 年 4 月の郵便番号データに基づいて更新

□API 仕様変更(C API)

- ・認識対象項目の指定は、IDRMyNumberRecogEx2 関数での指定を廃止し、OCR エンジンの初期化処理前に IDRMyNumberSetRecogTargets 関数で指定する仕様に変更
- ・OCR エンジン処理化処理を行う関数 IDRMyNumberInitEx は非推奨(廃止予定)に変更
- ・JPEG 形式/TIFF 形式での画像ファイル保存に対応した IDRMyNumberSaveImageEx API 関数を追加

□API 仕様変更(.NET)

- ・AI 動作を指定する IMyNumberBuilder.SetInitAllTypes(MynumNet.InitType) は非推奨(廃止予定)に変更
- ・認識対象項目の指定を行う方法が、フィールド認識処理を行う IEngine.RecogFields(MynumNet.ImageDeviceType, MynumNet.FieldTargetItem) での指定から IMyNumberBuilder.SetRecogTargets(MynumNet.FieldTargetItem) での指定に変更
- ・IEngine.RecogFields(MynumNet.ImageDeviceType, MynumNet.FieldTargetItem) は非推奨(廃止予定)に変更し、IEngine.RecogFields(MynumNet.ImageDeviceType) を追加
- ・通知カード非対応に伴い、IRecogResultNotification を廃止
- ・JPEG 形式/TIFF 形式での画像ファイル保存に対応した以下メソッドを追加
 - IImage.SaveCurrentImage(string, ImageFileType)
 - IImage.SaveMaskImage(IEnumerable<Rect>, string, ImageFileType)

=== Ver. 2.10 変更内容 ===

□機能強化

- ・個人番号カード(表面)の備考欄の認識に一部対応
対応内容は以下
 - ・備考欄の記載有無の判定
 - ・備考欄のフィールド矩形の座標・切り出し画像の返却※備考欄の記載内容の文字認識には未対応
- ・.NET アプリケーション開発で使用可能な.NET API を追加
対応バージョンは以下
 - ・.NET 6 / .NET 7
 - ・.NET Framework 4.7.2 / 4.8 / 4.8.1
- ・OCR エンジンにセットした画像のカード種別を設定する API 関数を追加
※OCR エンジン初期化時に複数のカード種別を設定した場合でも、OCR エンジンに画像をセットする時点でカード種別が判明している場合は、画像のカード種別を設定することで、フィールド認識処理内でのカード種別判定処理を省略することができ、処理時間の短縮効果が期待できます。

□パフォーマンス改善

- ・フィールド認識処理内での AI 文字認識の処理時間を短縮
- ・フィールド認識処理内でのカード種別判定処理で、極端に処理時間が長くなる場合がある問題を改善

□仕様変更

- ・動作環境/開発環境として Windows 10 / 11 の対応バージョンを以下に変更
 - ・Windows 10 version 21H2 / 22H2 日本語版
 - ・Windows 11 version 21H2 / 22H2 日本語版
- ・動作環境/開発環境として以下の OS への対応を終了
 - ・Windows 8.1 日本語版

=== Ver. 2.00 変更内容 ===

=====

□機能強化

- ・個人番号カード(表面)の認識対象項目(氏名、住所など)の認識について、従来と比較してより高精度な AI による文字認識処理(AI 文字認識)を行う AI(CPU)版と AI(GPU)版を追加
- ・AI 文字認識の場合、認識対象文字として「崎」「高」などの環境依存文字の一部に対応
- ・住所から郵便番号を取得する API 関数を追加
- ・認識結果としてフィールド切り出し画像の返却に対応
- ・認識結果項目を拡張
(氏名、住所、姓カナ、名カナ、旧姓カナ、顔写真)

□精度改善

- ・AI4 点検出の検出精度を改善

□仕様変更

- ・動作環境/開発環境として Windows 10 の対応バージョンを以下に変更
 - ・Windows 10 version 20H2 / 21H1 / 21H2 日本語版
- ・動作環境/開発環境として以下の OS に対応
 - ・Windows 11 version 21H2 日本語版

対応エディション：Home, Pro, Enterprise

- ・動作環境として以下の OS に対応
 - ・ Windows Server 2022 version 21H2 日本語版
- 対応エディション：Standard, Datacenter
- ・ Visual Studio の対応バージョンを以下に変更
 - ・ Visual Studio 2015 / 2017 / 2019 / 2022
- ・住所辞書を最新データで更新

==== Ver. 1.70 変更内容 ====

=====
機能強化

- ・マイナンバーカードのコーナー 4 点の座標を検出する機能について、AI による検出処理を行う AI (CPU) 版と AI (GPU) 版を追加 ※個人番号カード (表面) のみ対応

精度改善

- ・個人番号カード (表面) の文字認識精度を改善

仕様変更

- ・動作環境/開発環境として、Windows 10 の対応バージョンを以下に変更
 - ・ Windows 10 2004 / 20H2 / 21H1 日本語版

不具合修正

- ・個人番号カード (裏面) の読み取りでエラーが発生した場合に、以降の入力画像でもエラーが継続する不具合を修正しました。
- ・不正にライセンスエラーが発生する可能性がある不具合を修正しました。

==== Ver. 1.60 変更内容 ====

=====
機能強化

- ・認識項目の指定に対応
- ・認識対象カード種別を 1 種類のみ指定した場合の認識処理時間を改善

精度改善

- ・個人番号カード (表面) の文字認識精度を改善

仕様変更

- ・開発環境として以下の OS に対応
 - ・ Windows 10 2004 / 20H2 日本語版
- ・開発環境として以下の OS への対応を終了
 - ・ Windows 10 1803 / 1809 / 1903 日本語版
- ・動作環境として以下の OS に対応
 - ・ Windows 10 2004 / 20H2 日本語版
- ・動作環境として以下の OS への対応を終了
 - ・ Windows 10 1803 / 1809 / 1903 日本語版
- ・ Visual Studio の以下のバージョンへの対応を終了

- ・ Visual Studio 2010
 - ・ 動作環境へインストール必要な Visual C++ 再頒布可能パッケージを Visual Studio 2010 から Visual Studio 2015 に変更
-

==== Ver. 1.51 変更内容 ====

精度改善

- ・ カード種別マッチング精度を改善
- ・ 個人番号カード（表面・裏面）の各認識対象フィールドの文字認識精度を改善
- ・ 個人番号カード（表面・裏面）の回転方向検出精度を改善

仕様変更

- ・ 開発環境として以下の OS に対応
 - ・ Windows 10 1903 /1909 日本語版
 - ・ 開発環境として以下の OS への対応を終了
 - ・ Windows 7
 - ・ 動作環境として以下の OS に対応
 - ・ Windows 10 1903 /1909 日本語版
 - ・ 動作環境として以下の OS への対応を終了
 - ・ Windows 7
-

==== Ver. 1.50 変更内容 ====

新機能

- ・ 旧姓(旧氏)の併記へ対応

仕様変更

- ・ 動作環境として以下の OS に対応
 - ・ Windows Server 2019 日本語版
対応エディション：Essentials, Standard, Datacenter
 - ・ 動作環境として以下の OS の対応を終了
 - ・ Windows Server 2008 SP1/SP2 日本語版
対応エディション：Standard, Enterprise, Datacenter
 - ・ Windows Server 2008 R2 SP1 日本語版
対応エディション：Standard, Enterprise, Datacenter
 - ・ Visual Studio の以下のバージョンに対応
 - ・ Visual Studio 2019
-

==== Ver. 1.41 変更内容 ====

新機能

- ・ 新元号表記へ対応

仕様変更

- ・開発環境・動作環境として以下の OS に対応
 - ・Windows 10 version 1803 / 1809 日本語版
対応エディション: Home, Pro, Enterprise, Education
- ・開発環境・動作環境として以下の OS の対応を終了
 - ・Windows 7 SP なし
対応エディション: Starter, Home Premium, Professional, Enterprise, Ultimate
 - ・Windows 10 version 1507 / 1511 / 1607 / 1703 / 1709 日本語版
対応エディション: Home, Pro, Enterprise, Education

==== Ver. 1.40 変更内容 ====

=====
不具合修正

- ・マイナンバーカード(表面)の認識で強制終了する可能性がある不具合を修正

機能強化

- ・指定座標をマスキングした画像を返却する機能を追加
- ・画像の保存機能(API)を追加

仕様変更

- ・Visual Studio の以下のバージョンに対応
 - ・Visual Studio 2017
- ・動作環境として以下の OS に対応
 - ・Windows Server 2016 日本語版 SP なし
対応エディション: Foundation, Essentials, Standard, Datacenter

==== Ver. 1.31 変更内容 ====

=====
精度改善

- ・通知カードの認識精度を改善
- ・マイナンバーカード(表面)の認識精度を改善

不具合修正

- ・マイナンバー通知カードもしくはマイナンバーカード(表面)の住所認識でバッファオーバーフローが発生する可能性がある不具合を修正

仕様変更

- ・開発環境として以下の OS の対応を終了
 - ・Windows 8 日本語版 SP なし
(無印, Pro, Enterprise)
- ・動作環境として以下の OS の対応を終了
 - ・Windows 8 日本語版 SP なし
(無印, Pro, Enterprise)

==== Ver. 1.30 変更内容 ====

====
□機能強化

- ・マイナンバーカード(表面)のセキュリティーコードの認識機能を追加

==== Ver. 1.20 変更内容 ====

- ・Ver. 1.20 は for iOS、for Android のみ

==== Ver. 1.11 変更内容 ====

====
□不具合修正

- ・マイナンバー通知カードもしくはマイナンバーカード(表面)の住所認識でバッファオーバーフローが発生する可能性がある不具合を修正
- ・マイナンバーカード(裏面)の QR コードの認識結果が 13 桁を超えた場合にバッファオーバーフローが発生する不具合を修正

==== Ver. 1.10 変更内容 ====

====
□機能強化

- ・マイナンバーカードの表面の氏名・住所・生年月日・性別・有効期限の認識機能を追加
- ・マイナンバーカードの裏面の氏名・生年月日認識機能を追加
- ・認識の設定としてスキャナー画像モード、カメラ画像モードの設定機能を追加
 - ・IDRMyNumberRecogEx()
 - ・IDRMyNumberRecogFileEx()

==== Ver. 1.01 変更内容 ====

====
□精度改善

- ・姓名の認識精度を改善

□機能強化

- ・マイナンバーカードの QR コード認識機能を追加
- ・マイナンバー通知カード、マイナンバーカードの判定機能を追加